

### 第3回南陽市小中学校適正配置等検討委員会議録（概要）

日時：令和6年6月27日（木）

午後7時～8時40分

場所：南陽市役所4階 大会議室

○欠席者 高橋委員、佐藤（寛）委員、井上委員

○委員長挨拶概要

- ・今年、パリオリンピックと共に「技能オリンピック」も開催される。
- ・昔、日本は技能オリンピックにおいて「旋盤」「研磨技術」「鉄筋加工」等において国際的にトップであった。今はどうか。
- ・また、以前置賜地区では「コメ作り日本一」の称号を得た方を数多く輩出。しかし現在は、そういうことが話題に出てこなくなったのではないか。
- ・これらの件は、日本の教育が国際舞台において日の目を見なくなった証では。様々な調査の結果でも、東京大学を始めとして世界的な地位が低下している現状にある。
- ・本検討委員会はあと何回か話し合いを行うが、「Society5.0」を視野にこれからの教育のあり方を議論していく必要がある。
- ・前回までは全員から話をいただいたが、今後は協議の柱に沿った忌憚のない意見を。

○説明及び協議 議長：猪野委員長

※協議の前に猪野委員長より、本日の会議については「中学校の適正規模」に絞り協議をするとの提案 → 全員一致で承認

(1) 南陽市小中学校の状況と望ましい適正規模について（説明：学校教育課長）

- ・中学校の状況を中心に説明。  
平成19年度に策定した再編統合計画では、国の基準に沿って「基本的に12学級以上24学級以下としながらも、市内中学校においては、1学年3学級以上の9学級を目指していくことが望ましい」とされていた。  
  
→現在は、1学年2学級となる中学校も存在しており、当時の方針にはそぐわない状況も生じていることを説明。
- ・住民基本台帳から推計した資料を基にすると、現在の3中学校体制を維持した場合、令和15年度に1学年1学級の学校が発生する見込み。
- ・中学校において小規模化が進むと、教員の配置、特に技能教科の教員の配置数に影響が出る。
- ・これまで南陽市においては「小規模校のメリット」を活かした教育活動を展開してきたが「Society5.0の時代」を見据えたときに、新たな価値を創造する（イノベーション）力、個別最適な学び、協働的な学び等を通じた人材育成が必要であり、「多様な意見に触れる機会」「多様な考えに触れる機会」「議論をしたり意見交換をしたりする機会」といった環境の確保を目指さねばならないと考えている。  
  
→「学びの環境」を充実させるには、「一定の集団規模の確保」や「多様な考えを持った教職員の配置」が必要と捉えている。

(出された主な質問・意見)

(質問)

Q. 資料1ページの表の中にある「同学年の複数教員配置」というのは、どういう意味か。

A. 資料の2ページと3ページにまたがっている「教職員の定数(参考②)」にあるように、法に定められて乗する数値が決まっている。例えば中学校で1学年に3クラスの場合「担任3人プラス学年主任、それから副担任」という配置が可能な学校と「担任と学年主任を兼ねなければならない」学校が出てくる場合がある。(学校教育課長)

(意見)

・前回の統合から20年近くが経過しているとすれば、人的な面と校舎の施設整備的な面をふまえ、早急に再編整備計画を作っていく必要があるのではないかと懸念がある。高島中の場合は計画策定から統合校の開校まで6年くらいかかっているはず。子どもたちの環境を整えるための対応が遅れないよう求める。

・高等学校の統合に携わった経験から、農業工業商業の他分野を1校に統合するにあたり、各分野の専門家から理想を語ってもらい、それを叶えるような形で施設設備を作ることができた。

「魅力的な学校にするための人の交流」と「物的なものの配置」を両輪としていくことが必要。

・今の中学校の学校教育や、適正配置の学校の理想とする姿を考えると、「人的な部分」と「物的な部分」が大事。クラスをベースにしなが、小さい学習室のような「個別化」にも対応できるような学校施設の環境があると良い。一定規模以上のクラス数があれば、教員数の確保ができ、授業でも小グループで取り出したり、習熟度別に対応したりということが可能になる。子どもたちの探究心や好奇心を刺激するような環境になっていくことが理想。

・学校の外から見ている立場として、生徒の数と先生の数が合っているのかどうか。先生はものすごく忙しそうに見える。中学校に関しては、ある程度の生徒の人数規模を確保し、それに見合う教員の数確保も必要ではないか。先生数がきちんと確保され、子供一人一人に目が届く環境が望ましい。

・教育の現場では、コロナ禍を経てICT機器の活用が急激に進んだ。タブレットが、前で言う鉛筆やノートの代わりになっている。日本の子どもはICT機器の活用に関する能力が世界の中でも上位であり、適正規模の検討を進めていく中では、そういった日本の「進んでいる部分」をさらに伸ばせるよう、施設整備の面でも配慮が必要と思う。

・明治からの日本の学校教育のシステムがほぼ変わっていない中、外国語やICT学習など、教えないといけない内容が次々に増えていて、苦勞している子供たちが増えてきている。

また、報道等によれば「子育てに自信がないから子供は欲しくない」と考える大学生や、「管理職などの重い責任のある職は私には担えない」と考える新入社員が増えてきているとのこと。日本の子どもたちに「0を1にする力」や「ここにある問題を解決しようとする力」を育てていくことも課題である。

そういった中で、これからは

「たくさんの人数の中で、何らかのトラブルが起きたとしても、問題の解決策をみんなで話し合っ、自分たちで解決していく経験」

をさせていく教育がこれからは絶対に必要。

そのためにはある程度の学校の規模が不可欠。

既に令和6年度から1学年に3学級作れない中学校が出てきているため、早く適正規模の学校としていくべき。

今後も同様の子どもの減少が続くことを考えると、早めに南陽市として「1つの中学校」となることを目指し、他人との違いを認めながら自分自身を伸ばしていける教育をやっていく必要があるのではないか。

・今は男性も当然のように育児休業を取得する時代で、教員の数は足りるのか？という印象。南陽市の生徒数に対しての教員数を確保できる環境の充実が必要。

・前回会議でも「中学校は1校で良い」と意見を行った。

現在は子供たちにとっての「部活動の選択肢」が減ってきたり、その分野の経験の無い先生が顧問をせざるをえなかったり、二つの学校と一緒にチームを組まないと大会に出られないという状況が見受けられる。

また、中学校は専門の教科の教員がいたほうが良い。専門ではない教科を生徒に指導しなければならない状況が生まれないようにしなければならない。

そういう意味でも、学校はある程度の規模を確保していくことが望ましい。

・昔と比べて、子供たちは良くも悪くも「情報を得る」機会がすごく多くなっている印象。教育現場でそれを禁止したとしても別の場面で触れてしまう。それよりも、その情報をどう使うか、どういうふうなことが正しいのかを考えられる環境を教育の場で作っていかなければならない。

そのためには、独りよがりで考えるのではなく、たくさんの意見を聞いた、いろいろな人と話し合ったりすることが出来ることがとても大切。

今、子どもたちが身につけなければならない「力」が増えている。教員にも子どもを育てるための専門性が求められている。

子どもが自分の力を伸ばすことのできる環境や、いろいろな人と交わって社会性を身につける場面をすごく大事にしなければならない。

また適正規模の検討や、そこからの統廃合については「まず一步から」ではなく、スピーディに進めていかなければならない状況であると感じている。

・学校において生徒が「先生方を選べる環境」があることが望ましいと感じているが、それを踏まえると「免外指導解消可（免許外の教科を指導しなければならない教員が存在しないようにできる環境のこと）」は最低限のことだと思う。

美術などの技能教科はやはり専門の先生を配置すべきで、そうすると「9学級以上を目指す」ことは最低限とし、国で定める「12～18学級」に出来るだけ近づけていくべき。

大きな規模の学校であれば、いろいろな考えの人がいる中で自分を磨いていく環境を生徒に対し提供することがしやすいことから、そのように進めていくことが望ましいのではないか。

(まとめ)

- ・今回は、「中学校の適正規模」に絞って議論を行った。
- ・各委員より多くの意見が出されたが、子供のために良い教育環境を整えるためには、学校を一定規模以上の大きな規模、具体的には最低でも9学級以上、出来れば国で定める「12学級から18学級」に近づけていくことが大事である、という趣旨の意見で占められた。  
中には、より具体的に「南陽市の中学校は1校に」「計画の策定は早急に」という意見もあった。
- ・その他  
「たくさんの人の意見に触れたり、いろんな人と話し合ったりする機会の確保が重要」  
「美術などの専門教科を、免許外の教員が指導する状況を出来る限り回避するために教員数の確保が必要」  
「ICT機器を使用する環境の整備も含め、子供たちが情報に触れた際に正しい判断や行動ができるような教育環境を整える必要がある」  
「教育の効果を考えたときに(学校あたりの)教員の数をもっと増やす必要がある → そのためには統合が必要」  
等といった意見が出された。
- ・次回、第4回目の検討委員会では「小学校の適正規模」について議論を行う予定。
- ・5回目以降の会議においては、4回目まで出された意見文言を整理し、教育委員会への答申(案)の検討を行っていくことを確認。

○その他

次回委員会：8月29日(木)開催予定(市役所4階大会議室)

(閉会)